

(一般質問)

質問日	令和 6 年 9 月 26 日 (木)			質問方式	分割方式		
質問順位	4	会派名	自由民主党浜松	議席番号	40	氏名	戸田 誠
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 中山間地域振興の準用を核とした地方創生について	本市は、中山間地域振興計画の改訂を行っている。中山間地域の地域振興や、関係人口や交流人口の増加になるものと期待している。しかし、中山間地域周辺にも適用されることにより活性化される地域があると考え。中山間地域を活性化する事業の一つとして、Welcome集落事業がある。 そこで、以下について伺う。 (1) 中山間地域の対策として、実施する施策や事業に対して中山間地域の周辺地域でも実施する考えはないか伺う。 (2) 中山間地域や周辺地域の住民が中山間地域振興施策の活用を検討するにあたり、どのように住民ニーズの把握や情報提供を行っていくのか伺う。 (3) Welcome集落事業を中山間地域の周辺地域でも行いたい場合、申請はどのような単位であればよいのか伺う。						新谷市民部長
2 市街化調整区域の規制緩和を核とした地方創生について	中山間地域に隣接した地区の市街化調整区域では、少子高齢化が進み地域力が低下している。地域活性化を考え事業展開をしようとする規制が大きな足かせとなっている。 そこで、以下について伺う。 (1) 地域産業の発展と農地保全・環境保全の土地利用規制があると考えるが、人口減少を踏まえ、今後の土地政策をどのように考えているか所見を伺う。 (2) 現存宅地での建築や、現存建物の改修・改築などは、運用基準の規制緩和をするべきと考えるが所見を伺う。						濱田都市整備部長
3 棚田を核とした地方創生について	棚田は国民共通の財産である。生産条件が悪く、その維持には多大な労力やコストを要し、高齢化や担い手不足により荒廃の危機に直面している。関係人口の創出・拡大に努めるとともに、貴重な財産である棚田の保全を図る必要がある。 本市には久留女木、白櫃、大栗安の棚田がある。棚田での活動を発信していくべきと考える。 全国の棚田を有する地域が集まって関係人口の創出や棚田という財産を未来へ継承していく目的で全国棚田サミットがある。 そこで、さらなる地域の誇りの醸成や地域活性化をするために棚田地域振興施策として「全国棚田（千枚田）」						中野市長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	サミット」を誘致する考えはないか伺う。	
4 文化財を核とした地方創生について	地域活性化で大切なことは、地域の歴史や文化を生かすことである。歴史や文化は、その地域の成り立ちや地域に住む人たちの地域愛やシビックプライドがどのようなものかを知るうえで非常に重要なものと考ええる。現在、伝統文化への意識の希薄が進み、文化財の保護が危ういことになりつつあり、管理の問題がある。例えば、中山間地域に残っている面の管理が問題化している。適正な管理は、地域に密着した区役所・行政センターや支所が行っていくのが本来の姿と考える。区再編により人的パワーが減少すると今後、文化財の扱いが粗略になっていくのでは、と危惧している。 そこで、以下について伺う。 (1) 区政における文化財の位置づけと、区として区内の文化財をどのように守り、どう活かしていく考えか伺う。 (2) 中山間地域を中心に残る無形民俗文化財（民俗芸能）のうち、散逸・滅失の危機に直面している未指定文化財の面について、早急な調査が必要と考えるが伺う。 (3) 市内の文化財を保存・活用していくためには、文化財課の体制強化が必要と考えるが、現状と課題を伺う。	野田浜名区長 嶋野文化振興 担当部長 〃
5 地域愛を核とした地方創生について	(1) 市長は熱い「はままつ愛」を持って浜松の地方創生を行おうとしていると理解している。地域愛を市民に浸透させるためには、トップの「はままつ愛」を市民にも共有してもらうことが必要と考える。特に若い世代に「はままつ愛」を持ってもらい、「地域愛」を醸成させることが大切であると考ええる。 そこで、以下について伺う。 ア 市長が思う「地域愛」とはどんなもので、どう醸成させていく考えか伺う。 イ 学校やCS（コミュニティ・スクール）の取組がどのように地域愛につながっていくと考えているか伺う。 (2) 地域の方々が学校を中心に地域愛を考えている。地域住民と共に地域愛を醸成させていくことが大切であると考ええる。学校では、児童・生徒の活躍を学校のフェンス等に横断幕を掲示して地域の方々に紹介している。しかし、設置できない場合がある。そこで、我が会派として、9月補正予算に関する緊急提言で、設置するよう要望したところ、回答として紹介方法は様々な手法があり、どの方法が最も適切で効果的か、各学校の状況に応じて検討して実施していくとの前向きな回答があった。 そこで、横断幕や懸垂幕による児童・生徒の顕彰につ	中野市長 宮崎教育長 奥家学校教育 部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	いて、どのように考えているか伺う。	
6 浜名区を核とした地方創生について	本市として、地方創生を考える上で、3つの区分けをして考える必要があると考える。浜松全体、区単位、自治会単位と考える。それぞれの単位の地域活性化が行われることにより、本市の地方創生の目的達成へ進んでいくと考える。令和6年5月定例会において、浜名区長は、各地域の相互乗り入れが容易となる交通手段の確保を検討すると答えている。 そこで、区長が考える相互乗り入れが容易になる交通手段とはどんなものなのか伺う。	野田浜名区長
7 子供を産み育てる環境整備を核とした地方創生について	現代の子供を産み育てる環境と、多くの子供が産まれた時代の環境を比べた時、何が違うのか。多くの子供を産み育てる環境の時の方が厳しい条件下であったと考える。その中でも多くの方々が、ある意味何の躊躇もなく産み育てを行って来た。今は、行政支援も豊富になっている。子供を預かる支援体制も整備されている。環境も考え方も変化する中、子供を産み育てる環境にないと考えている方々が多いと感じる。これは、ある意味、価値観の違いもあるだろうし、SNSなどからの情報量が豊富なこともあり、自分たちは、子供を産み育てる環境にないと思ってしまう結果ではないかと考える。 では、どうしたら子供を産み育ててもらえるのか。地方創生特別委員会のアンケートでは、環境が整えば、企業の理解があれば子供を産み育てたいと思っている方々が多くいる結果であった。「安心」を提供する必要がある。子育て世代・企業にアピールし「安心」を市全体でつくりあげることが必要と考える。 そこで、子供を産み育てる「安心」という環境づくりを行政・企業・地域が行なうための条例制定について、伺う。	北嶋産業部長
8 女性の地方からの流出抑制を核とした地方創生について	厚生労働省の都道府県別の女性の就業状況等についての調査報告書の資料に、「男女間の賃金格差が、若い女性の地方からの流出につながっている可能性」の資料がある。その中で、若年女性の流出にはさまざまな要因が考えられるが、未婚者の男女比の不均衡と各地域における男女間賃金格差の間には、緩やかな相関関係が観察されるとしている。 地方創生を行う上で、若者の力は必要不可欠で、特に若年層の女性の存在が大切になっている。 そこで、本市産業としての若年層の地方流出を抑える取組と考えについて伺う。加えて、特に流出が顕著な若年層の女性に対してどのように考えているのか伺う。	北嶋産業部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
9 下水道と浄化槽の公平について	下水道ビジョンが今年度をもって終了する。現在、新しいビジョンを策定中と聞く。どんなビジョンを示すのか気になる。 現ビジョンでは、浜松市未来ビジョンが描く「どこでも安全、いつまでも安心、持続可能で快適なまちになっている」姿の実現に向けて施策が描かれている。持続可能と「どこでも」は、大変難しい課題と考える。下水道の拡張は無限には出来ない状況と理解する。そこで、下水道と浄化槽の役割分担が求められるが、下水道と浄化槽では公平性を欠くように感じる。 そこで、以下について質問する。 (1) 新ビジョンはどのような考え方で策定するのか伺う。 (2) 清掃及び点検をきちんと行うために、浄化槽の維持管理費と下水道使用料を同一にすることで、水環境の改善を促進させる考えがないか伺う。	内藤水道事業及び下水道事業管理者